

事後評価結果（令和元年度）

担 当 課：埼玉県 県土整備部 道路街路課

担当課長名： 吉澤 隆

事業名	地域高規格道路 西関東連絡道路 一般国道140号 皆野秩父バイパス	事業 区分	一般国道	事業 主体	埼玉県
起終点	自：埼玉県秩父郡皆野町 至：埼玉県秩父市蒔田			延長	4.9 km
<p>事業概要</p> <p>一般国道140号は、埼玉県熊谷市を起点に、山梨県富士川町を终点とした、広域的な幹線道路であり、県内においては、県北部と秩父地域の生活や経済活動を支える重要な路線である。皆野秩父バイパスは、埼玉県秩父郡皆野町から秩父市蒔田までの延長4.9 kmのバイパス事業である。</p>					
<p>事業の目的・必要性</p> <p>皆野秩父バイパスの整備により、秩父地域へのアクセス向上と円滑な交通を確保することを目的としている。</p>					
<p>事業概要図</p> 					

事業の 効果等	事業期間	事業化年度 都市計画決定	H14年度	用地着手 工事着手	H15年度 H16年度	供用年 (暫定/完成)	(再評価) H29年度 (実績) H29年度	変動	1.0倍	
	事業費	計画時 (暫定/完成)	(名目値) 188/億円 (実質値) ー/億円	実績 (暫定/完成)	(名目値) 188/億円 (実質値) ー/億円			変動	1.0倍	
	交通量 (当該路線)	計画時 (暫定/完成)	7,200/台/日		実績 (暫定/完成)	4,241/台/日		変動	58.9%	
	旅行速度向上 (供用前現道→当該路線)	32.5 → 60 km/h (供用直前年次) H22年度 (供用後年次) R1年度			交通事故減少 (供用前現道→供用後現道)	14 → 11件 (供用直前年次) H29年 (供用後年次) H30年				
	費用対効果 分析結果 (再評価)	B/C	総費用 249.7億円 事業費: 221.9億円 維持管理費: 27.8億円		総便益 277.4億円 走行時間短縮便益: 241.6億円 走行経費減少便益: 29.8億円 交通事故減少便益: 6.0億円		基準年		平成27年	
	費用対効果 分析結果 (事後)	B/C	総費用 282億円 事業費: 271億円 維持管理費: 11億円		総便益 284億円 走行時間短縮便益: 269億円 走行経費減少便益: 12億円 交通事故減少便益: 3億円		基準年		令和元年	
	事業遅延によるコスト増	費用増加額		ー		便益減少額		ー		
	事業遅延の理由	特になし								
	客観的評価指標に対応する事後評価項目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現道の交通量が皆野秩父バイパスに転換し、減少するとともに拠点間の所要時間が短縮した。(花園IC～秩父ミュージックパークへの所要時間が28分短縮) ・ 皆野秩父バイパス整備により、秩父市街地へのアクセス性が向上した。 ・ 秩父地域は県内有数の観光資源があり、昨年度は入込客数が1000万人を超えるなど観光地として人気が高い。皆野秩父バイパスの供用により熊谷方面からのアクセス性向上により観光客増加に貢献している。 ・ 第1次特定緊急輸送道路に指定されることが見込まれており、山間部を通る県道や現道の140号の代替輸送路として、災害時の緊急輸送における確実性が向上した。 								
	その他評価すべきと判断した項目	特になし								
事業による 環境変化	環境影響評価に対応する項目									
	その他評価すべきと判断した項目 特になし									
事業を巡る社会経済情勢等の変化										
・ 観光客増加に貢献(秩父地域観光入込客数 部分供用後: 55万人増、全線供用後: 28万人増)										
今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性										
・ 事業効果は発現しており、事業の有効性が確認されていることから、当事業において改善措置を行う必要性及び今後改めて事後評価を実施する必要性はない。										
計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性										
・ 事業評価の結果、同種事業の計画調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要はない										
特記事項										
特になし										

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。